


『新しい生活様式』の実践例に基づいたセッティング例

ダウンロードできます
このマークがあるものは
当社ホームページから
ダウンロードして頂けます。




厚生労働省より発表された『新しい生活様式』の実践例に基づいた、食育SATシステムを使った食事バランスチェック(体験型栄養指導)のセッティング例です。指導者側も体験者側も安心して実施して頂けるよう、設置・運用・事後の手入れを中心に、本システムをご採用いただきました皆様へ具体的な運用事例として作成致しました。是非ご参考頂き、より効果的な栄養指導にお役に立ていただければ幸いです。

体験前後に
手指の消毒を行います。
告知ポップもごさいます。



ポスターを
掲示する



トレーの枚数制限を行うことで一度の体験者数のコントロールができます。使用テーブルの間口数(左記では3枚)にすると自然と密にはなりません。

体験者との間には
パーテーションを設置すると
より安心してご利用いただけます



A フードモデル戻し担当者(2名~)
体験済みフードモデルを元の位置に戻します。又、使用済トレーのアルコールでの拭き取りを実施します。

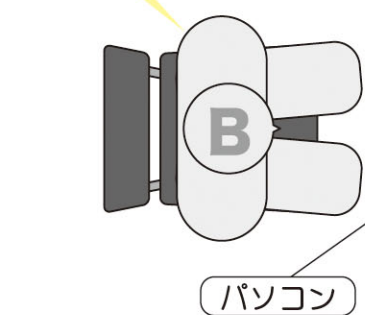


長テーブル(1800×450)8台使用
+α(栄養指導コーナー)

体験者の流れ

パーテーション

B パソコン操作担当者
(1名)



機一台追加
パーテーションが無い場合はテーブルの間隔をあけると良いでしょう。



栄養指導コーナー

アドバイス時は正面にならないようにレイアウトすると安心です。

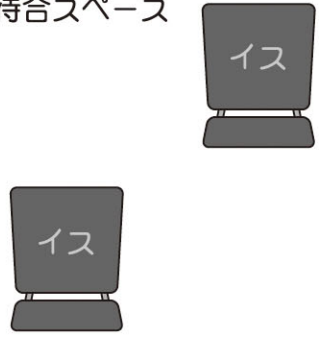
パーテーション
パーテーションがあれば更に安心です。
指導スペース

C アドバイスの
担当者(1名~)

待合スペースがあると密集を避けられます。待ち時間で事前に**※個人データ記入表**に記入していただき、**※フードモデル写真付き一覧表**を使って選ぶ内容を考えていただくと時間の短縮ができます。



待合スペース



離れて
1m以上
お並びください



足跡シートの
ところでSTOP!
人の流れを調整
しましょう。

設営のヒントとポイント

※左記マークは
当社ホームページよりダウンロードして頂けます。

- 掲示用ポスターの設置と体験者に呼びかけを行います。
- 体験前後の場所に消毒液を設置します。
- トレーの枚数を調整し、同時にフードモデルを選ぶ人数を制限する事により、密になることを防ぎます。
- **※足跡マーク**等を床に貼って、人と人との間隔を空けます。
- SATでの判定時に体験者と運営側との距離を取るため、机をもう一台追加します。
- センサーボックス付近では体験者とパソコン操作者との間にパーテーションを設置する事で、飛沫感染を防止できます。また**※個人データ記入表**を使うことで口頭での聞き取りをせずに入力ができます。

運用のヒントとポイント

※左記マークは
当社ホームページよりダウンロードして頂けます。

- 体験者がSATのフードモデルを選ぶ同時人数を減らすために体験者の間隔を1m以上空けます。
- **※整理券**を活用し、一度に体験する人数を制限する方法もあります。
- 体験前後に手指の消毒を行います。**※告知ポスター**を掲示することで参加者の方への安心感が高まります。
- 体験者、運営側は基本マスクを着用します。
- 消毒だけで不安な場合は使い捨て手袋を使用する事で、直接フードモデルに触れる事なく衛生的です。
- 運営側は使い捨て手袋を使用し、なるべく素手でフードモデルに触れないようにします。またフェイスガード等も取り入れると効果的です。